

よろずは

平成二四年

十二月号

歌碑めぐり 2

今回ご紹介するのは、九州最古といわれる鎮懐石八幡宮の万葉歌碑です。これは『万葉集』巻五・八一三番歌の長大な序文と長歌、そして八一四番歌の短歌とが碑の表面にびつしりと刻まれたものです。鎮懐石とは神功皇后が朝鮮出兵のときに2つの石を懐みだかに抱かかいて心を（あるいは胎動を）鎮めた、という伝説の石です。『万葉集』では作者未詳ですが、歌碑では山上憶良の詠としています。

碑の背面には安政六年（一八五九）六月にこの歌碑を建てたと刻まれています。揮毫者は日巡武澄ひよし たけずみという人物。この人は中津藩の儒学者でした。というのも、歌碑がある深江は享保二年（一七一七）から明治維新まで中津藩の飛び地であったためです。美しい書体でもって難解な万葉仮名を書き上げているところに、近世儒学者の高い教養をうかがい知ることができます。

【万葉古代学係】



鎮懐石八幡宮の万葉歌碑
(福岡県糸島郡二丈町深江)



タイトルの「よろずは」は、「万葉」を訓読みしたものです。